



論述ブースト No.3

医療倫理の「4原則」で論じる

—— 善行・無危害・自律・公正を答案に組み込む

 **今日のゴール：** 医学部小論文・面接で頻出する「医療倫理の4原則」（Beauchamp & Childress）を正確に定義し、実際の医療事例・論述問題に当てはめて論証できるようにする。「感想」から「倫理的論証」へ答案を一段引き上げる。

 **新課程対応版（2026年改訂）** | 医療倫理の4原則の概念は新課程「公共」「倫理」で扱われます。本講座では答案・面接で論証として使いこなす実戦技術を習得します。

 この授業の問い

1. 「患者の気持ちを大切にすると」「患者の自律性を尊重する」は何が違うのか？
2. 善行と無危害が衝突するとき（例：がん告知）、どう論じるべきか？
3. 4原則のうち「公正（Justice）」はなぜ最も政策的な原則なのか？

① 自律尊重 (Autonomy)

自律性の原則

患者が十分な情報に基づいて自分で意思決定する権利を尊重する。インフォームドコンセントの理論的基盤。

例：手術を拒否する患者の決定を尊重する

② 善行 (Beneficence)

恩恵の原則

患者の最善の利益のために行動する義務。医師は患者に積極的に利益をもたらさなければならない。

例：有効な治療法を積極的に提供する

③ 無危害 (Non-maleficence)

危害回避の原則

患者に害を与えないこと。"Primum non nocere" (まず害を与えるな) の原則。善行より制約が強い。

例：副作用が大きい治療を不必要に行わない

④ 公正 (Justice)

公平性の原則

医療資源の公平な分配・平等な扱い。個人レベルを超え、社会・制度・政策レベルの倫理。

例：希少な臓器・ICUベッドをどう配分するか

採点者の視点

採点者はここを見ている —— 医療倫理・4原則で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ内容でも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しいことを書いていても、論証の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

医療倫理・4原則では、4原則の使い分け根拠が答案の質を大きく左右します。

② 医療倫理・4原則で採点者が見ているポイント

「善行・無危害・自律・公正のどの原則が優先されるかを明示した答案」が採点者評価を上げる

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。結論を出すだけでなく、論証の構造を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「意見があるか」ではなく「なぜそう考えるかを構造的に説明できるか」です。この授業で習得する「論証の骨格」は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所